

はじまりました！うるま市社会福祉法人ネットワーク連絡会
 ～みんなで「つながる・つなげる」からはじめよう～



(社)むぎの会
仲地一理事長

(社)緑和会
仲宗根忍支援課長

(社)緑和会
宮里初美常任理事

(社)起産石川
太直美理事長

(福)中陽福祉会
屋富祖裕也課長補佐

(福)与勝福祉会
山城証施設長

(福)育賛会
島袋邦俊コー
ディネーター

(福)ふくぎ会
古謝清秋氏

(福)大樹会
西村夏生施設長

～ご参加ありがとうございました～

11月30日(水)午後2時から、3年ぶりとなる社会福祉法人ネットワーク連絡会が開催されました。当日は、7法人の皆様にご参加いただき、前回のネットワーク懇談会以降この3年間の取り組みやコロナ禍での各施設のクラスター対応について、感染症を含む災害時体制整備と連携についてなど盛りだくさんの話題を共有する機会となりました。

中でも今回は、障がい・高齢者支援をする法人を中心とした連絡会のため、うるま市の地域課題として「権利擁護」と「成年後見制度」について、うるま市の高齢者人口の推移などを共有しつつ「法人として連携しつつ取り組める公益的な取り組みの模索」について意見交換を行いました。



前回ネットワーク懇談会からの取り組み状況報告～就労支援プロジェクトと就活応援フェアの実施～

前回の令和元年度2月会議から「公益的な取り組みをやりたくても人材不足で思うように取組めない」という現場からの課題をいただき、令和2年度から「うるま市就労支援プロジェクト」を立ち上げ、令和3年度より「福祉のお仕事・就活応援フェア」を開催しています。令和5年度以降も多くの市民に福祉のお仕事を知ってもらいながら各法人の人材確保に取り組めます。

うるま市の地域福祉課題について(ご意見まとめ)



① 災害対策と連携

コロナのクラスターがどの法人でも発生する中、利用者だけにとどまらず、職員も次々と罹患する中で、自法人の通所事業を閉所したり、事業所を閉鎖したりしながら何とか乗り切ってきた。

マニュアルはあったが、人がいない。マニュアル通りにはいかない現場の状況から、一度目よりは二度目といった具合に経験からのエビデンスを積上げながら、これを次に活かすことが大事。

コロナなど感染症については、連携といっても応援を自法人の体制を維持するだけでも厳しい中で応援は出しにくいし、入れにくい。対策や対応などの情報の共有やノウハウのシェアは必要。

② 権利擁護支援について

2040年に向けて、権利擁護支援を必要とする人が増えてくることは理解できたが、成年後見については専門性も必要であり、難しさを感じる。

日々の現場で、本人の生活に必要な年金を家族管理の中で搾取されてしまうなどの被虐待事例を発見し、市長申し立ての申請支援を行うなど(今も動いているケース有)課題を感じている。

今後の取組みについて

① 各法人の人材確保について

「福祉のお仕事・就活応援フェア」の開催場所や実施の方法(学校との連携や出前説明会など)を再度検討しながら、引続き福祉人材確保の活動を推進していきます。

② 災害対策と連携について

連絡会での情報交換をとおして、必要な連携を継続検討していきます。

③ 権利擁護について

市内権利擁護体制の整備推進に向け、社会福祉法人による法人後見の取組みについて検討できるかを模索する。

まずは今年度、「成年後見制度基礎講座」1回目を開催する。

→詳しい内容は決まり次第お知らせします。

令和5年度に向けて、うるま市権利擁護推進検討会議(作業部会)を立ち上げる。

→推進に必要な検討を開始します。

④ 保育園については、今年度は別途連絡会を行い、次年度以降全体会の実施に向け進めていきます。



ご協力ありがとうございました！フードドライブ



12月14日(水)社会福祉法人縁和会さまからフードドライブのご寄贈をいただきました。いただいた食糧は様々な事情を抱えている生活困窮世帯等へお届けさせていただきます。年末に入り、コロナ禍や物価高の影響で厳しい世帯からの相談も増えている中、大切に活用させていただきます。皆さまからのご支援に感謝申し上げます。市内の社会福祉法人の皆様におかれましては、今後とも「フードドライブ活動」へのご支援ご協力をお願い申し上げます。

社協 HP・LINE・Facebook・Insta こちらから→

